



発行所
一般財団法人滋賀県遺族会
滋賀県大津市におの浜4丁目2-34
滋賀県遺族会館
電話 (077)522-7227
FAX (077)522-7233
発行責任者
滋賀県遺族会長
岸田 孝一

滋賀県戦没者遺族大会

私たちの願い 次世代に繋ぐ

全員参加型の歌のイベントも

11月15日、東近江市の八日市文化芸術会館において、800余人の参加者のもと、平成26年度滋賀県戦没者遺族大会が開催された。また、今回は従来のアトラクション・記念講演から全員参加型行事に内容を変更し、出席者全員が体を動かし声が出せる活気あふれる大会となった。

藤澤喜八郎副会長の熱く力強い開会のことばに始まり、国歌斉唱・黙祷、岸田孝一会長の「再び悲しい戦争を繰り返さない」という心を込めた開会あいさつへと続いた。

引き続き、長年遺族会活動に大きな貢献をされた方々に

滋賀県知事表彰、会長表彰が授与された。知事表彰は大津市の森川学氏をはじめ4人、会長表彰は地元東近江市の佐生幸一氏はじめ31人が受賞した。また、本年度は大津市遺族連合会に長年の贈所公園内の滋賀県戦没者英霊塔維持管理への尽力に対して感謝状の贈呈もあった。受賞した皆様のこれまでのご貢献に敬意を表

し、今後一層のご活躍を祈る。

次に、西嶋栄治副知事、赤堀義次県議会議長、地元東近江市の小椋正清市長から来賓を代表して挨拶をいただいた。

体験発表では、次世代戦跡訪問事業で鹿児島県知事視察を訪問した県立守山中学校1年生の遠藤勇さん、沖繩での体験を語ってくれた野洲市立中中学校3年生



あいさつを述べる岸田孝一滋賀県遺族会長

提案され、戦争のない平和な世界の実現と、私たちの願いを次世代にしっかりと繋ぐことを確認し、満場の拍手で承認された。

川嶋の生副会長の閉会のあいさつで第一部が終わり、昼食をはさんで午後の部へ。

長く続いた「スポーツの集い」がなくなった本年は、午後の部をみんなが体を動かし声が出せる賑やかな催しにした。

「戦没者の孫・ひ孫」にどのよう伝えて行くのか、組織化に向けて検討する段階に入った中での研修会となりました」と挨拶をされた。

青年部の組織化に真剣に取り組む

女性研修会 分科会で活発な意見交換

10月17日、平成26年度滋賀県遺族会女性研修会が大津市勤労福祉センターで開催された。県下各地から女性会員146人と岸田孝一滋賀県遺族会長はじめ滋賀県遺族会の男性役員23人が助言者・オブザーバーとして参加していただいた。

女性研修会は遺族会の中心的な役割を担って来た女性会員の高齢化が進む中、本会組織の要と認識するとともに、今回は特に組織の継承を重点的に考え、尚一層の充実を図ることを目的として女性会員を対象として研

修するものとなった。岸田孝一会長の挨拶の後、的場恵美子日本遺族会担当女性部会長が「去る7月に日本遺族会に於いて「女性部結成60周年の集い」が開催されたが、戦没者の妻つまり私たちが母達は、酷寒もいとわず陳情し、今日の遺族会を築き上げて来られた。その母も高齢化が進み、私たちも70歳を超え、この遺族会を私たちの代で終わりにしないために

「戦没者の孫・ひ孫」にどのよう伝えて行くのか、組織化に向けて検討する段階に入った中での研修会となりました」と挨拶をされた。

「戦没者の孫・ひ孫」にどのよう伝えて行くのか、組織化に向けて検討する段階に入った中での研修会となりました」と挨拶をされた。

新年のご挨拶



滋賀県遺族会長 岸田 孝一

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。新しき平成27年を皆様お揃いでお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

先の大東亜戦争が終わって早や70年となります。仏教では、50回忌が過ぎると次は100回忌となり、その間は何かしら良いのだと言われませんが、英霊をそのように扱って良いのでしょうか。今でこそ人生は80年あるいは90年と、時代と共に長生き出来るのが当たり前となつてきていますが、戦前は人生50年とよく言われていました。しかし、英霊の皆様は50年を全うされた方は誰ひとりも居られないと思えます。それだけにこの世に強い思いを残されたことと思われま

す。その強い思いと、心、身体を受けている私達であるのだとの心になるのは、私一人だけでしょうか。戦後70年を大きな節目の年となる

には、何をしなければならぬのか、今一度、英霊の思いを訪ねなければいけないと思えます。英霊の皆様が出征される時の国及び地方自治体が約束されたことが、どれだけ果されてあるのか、検証をしてみなくてはならないと思えます。

青年部(戦没者の孫・ひ孫)の組織化への取り組みも、会員皆様のご理解とご協力をいただいたお陰で、着々と進んでいます。心より感謝申し上げます。遺族会が継続されますように、今後も変わらぬお力添えをさせていただきますようよろしくお願い申し上げます。

女性研修会では、本会組織の要と認識するとともに、今回は特に組織の継承を重点的に考え、尚一層の充実を図ることを目的として女性会員を対象として研

修するものとなった。岸田孝一会長の挨拶の後、的場恵美子日本遺族会担当女性部会長が「去る7月に日本遺族会に於いて「女性部結成60周年の集い」が開催されたが、戦没者の妻つまり私たちが母達は、酷寒もいとわず陳情し、今日の遺族会を築き上げて来られた。その母も高齢化が進み、私たちも70歳を超え、この遺族会を私たちの代で終わりにしないために

「戦没者の孫・ひ孫」にどのよう伝えて行くのか、組織化に向けて検討する段階に入った中での研修会となりました」と挨拶をされた。



挨拶をする的場恵美子日本遺族会担当女性部会長

午後からは4分科会に分かれ、活動を次世代にどのよう引き継いで行くのか等について話し合いが持たれた。

分科会終了後、大ホールに戻り全員で「青い山脈」「里の秋」(ナレーション入り)「琵琶湖周航の歌」を斉唱し、なつかしいひと時となった。

続いて、各分科会のまとめの発表があり、全体のまとめには川嶋の生滋賀県遺族会副会長が「次世代をどのようにつくっていくのか、皆さんの知恵をお借りし、未来永劫慰霊祭は続けて欲しい等、孫・ひ孫の会の結成に向けて意向調査を進めて行くので是非ご協力いただきたい」と要請された。

角野彰夫事務局長より遺族会事業の報告があり、最後に全員で心をこめて「靖國神社の歌」を斉唱し研修を修了した。

(女性委員会 副委員長 永福 峰子)

各府県の遺族会活動さらなる連携を

日本遺族会第3ブロック会議

12年ぶり滋賀県で開催



平成26年度日本遺族会第3ブロック会議出席の皆さん

平成26年度第40回一般財団法人日本遺族会第3ブロック会議が、平成26年9月24・25の両日、ブロック内12府県の遺族会役員・関係者が集まり、長浜市で開催された。

会議は、各府県の遺族会活動の連携と、今後の方針を確認し合う目的で、滋賀県での開催は平成14年以来12年ぶり4回目である。

会場の長浜ロイヤルホテル（長浜市大島町）には、ブロック内から約110人の遺族会役員が参加し、24日午後、恵美子滋賀県遺族会

副会長の開会の辞により式典が挙行された。

国歌斉唱・黙祷と続き、最初に開催県である岸田孝一滋賀県遺族会会長が、「次世代への取り組みが順調に進むことを希望」と挨拶。続いて、森田次夫日本遺族会副会長より「特別弔慰金の概要要求に対し、9月末満額回答を得、12月の予算編成の可能性が大である」との報告があった。更に、伊藤早苗第3ブロック代表（三重県）が「本会が有意義な会になることを期待する」と挨拶。次いで来賓の大岡敏孝衆

議院議員から①戦争体験を次世代に引き継ぐことに努力したい②従軍慰安婦問題の誤報に対し、誤解を解く努力をしたい③誤った教科書の記述を正すため努力を傾注する。上野賢一郎衆議院議員より「特別弔慰金問題に全力を尽くす」と挨拶があった。

そして、三日月大造滋賀県知事のメッセージ（多胡豊章滋賀県健康医療福祉部長代読）が披露され、水落敏栄日本遺族会顧問、武藤貴也・武村展英各衆議院議員、有村治子・二之湯武史各参議院議員から

も祝電が寄せられた。

その後、大長弥宗治滋賀県遺族会副会長より日程説明があり、議事に入った。

次世代の

の取り組みに温度差

続いて本年の主要課題である、各府県の「戦没者の孫・ひ孫の会」への取り組みについて、各府県より現況が報告された。その取り組み状況を大別すると、

【組織化を★結成済みである：0★結成

の予定である：5★ ④★結成の予定がない：3】各地域の特殊な条件などもあるため、取り組みに相違の温度差があると痛感した。

意見交換の中で問題点として①個人情報

報の壁など、プライバシーへの障害もある②遺族会員の孫・ひ孫に限らず、一般の中高生に平和の大切さを伝えて行く方に力点を置くべき③組織化には疑問④各府県の護国神社や県の追悼式などに、孫・

先ず、議長に開催県である岸田孝一会長が就き議事が進められた。はじめに、畔上和男日本遺族会

専務理事・事務局長から、平成26年8月に特別弔慰金の増額計上の要望書を伊吹文明衆議院議長に提出したと報告。英霊顕彰や今後の戦跡慰霊巡拝の予定など中央情勢についての説明があった。

ひ孫の出席を督促する方が先決である⑤名簿が完成しても、我々の望む形になるか疑問⑥現在の活動を維持するのが精一杯である等、組織化に向けて乗り越えねばならない難関が立ちだかっていることを再認識した。

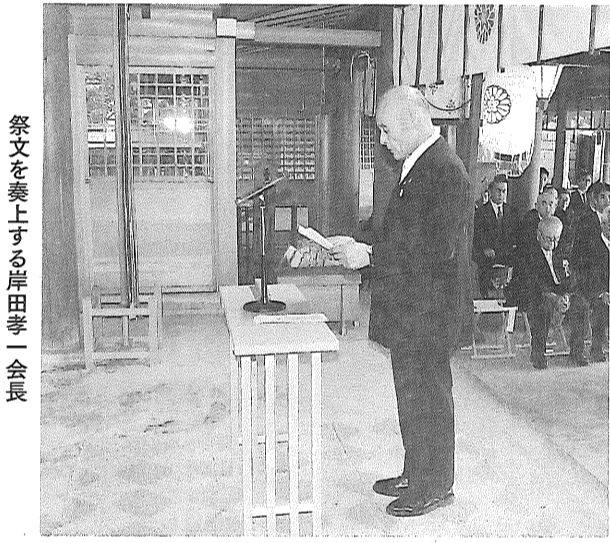
最後に、次年度の開催地を満場一致で三重県に決定し、木津美智子滋賀県遺族会副会長の閉会の辞をもって会議を閉じた。

その後、各府県からの提出議題の検討に入り、福井県から「特別弔慰金」の支給に係る受給要件の改善についての要望があり、大阪府からは「九段会館の存続問題」また「各種分担金問題について」各遺族会の財務内容が悪化する中で、分

翌25日は、遠来の参加者を中心に黒田官兵衛博覧会場、滋賀県護国神社、彦根城などを巡った後、三重県での再会を約

参列者減少 早急な対策を

滋賀県護国神社秋季例大祭



祭文を奏上する岸田孝一会長

本土上陸が心配された、超大型台風18号も東方海上に逸れて、時おり青空ものぞく天候のもと、滋賀県選出の国会議員をはじめ、多数の来賓、県内各地より約

600人の遺族会員が参列し、平成26年10月5日午前10時より、滋賀県護国神社秋季例大祭が厳粛に齊行された。

岸田孝一会長から「戦後69年が経ち、

次に、多賀大社の巫女による「浦安の舞」の奉納ののち、玉串奉奠があり、御霊をお慰めした。

最後に、山本賢司宮司より「今回の大祭に際し、各地遺族会員による草刈り奉仕や清掃奉仕、諸準備に関わっていただいた多くの方々の力

添えがあり、台風の前触れの中、天候も何とかもって、大祭を終えることが出来た」と、参拝者に感謝の言葉を述べられ、午前11時30分、無事終了した。

毎年、春秋の例大祭が齊行されるが、年々参列者数が減少傾向にあるのは、遺族会員の減少など多くの要因があると言え、大変残念なことである。

一刻も早い次世代への浸透など、早急に対策を講じなければならぬ課題を与えられた大祭であった。

(広報 原 幸男)

し、第3ブロック会議の全日程を終えた。

(広報 原 幸男)

②日本遺族会第3ブロック所属府県は、

富山・石川・福井・愛知・岐阜・三重・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・滋賀の12府県である。

自民党全議席返す持

第47回衆議院議員総選挙

昨年12月14日第47回衆議院議員総選挙が投票開票され、滋賀

県内の4選挙区で、自民前職の4人がいづれも議席を守った。

 滋賀1区 大岡 敏孝氏	 滋賀2区 上野賢一郎氏
 滋賀3区 武村 展英氏	 滋賀4区 武藤 貴也氏

「がむしやら人生」
山田利治氏が出版

滋賀県遺族会相談役（元会長）山田利治氏が、自分の人生経験をまとめた「がむしやら人生」戦争のない平和な社会を願って」と題して本を出版された。

父の戦死から現在に至るまで、一人の戦争遺児としての人生、家族の協力・理と締めくくられていく。これからは平和の語り部として活躍されることを期待する。

(広報委員会)

合同会議

仮称「遺族会青年部」設立めざし

加入意向調査の実施

平成26年12月6日、滋賀県遺族会は平成26年度第2回合同会議を大津市のアヤハレパークサイドホテルで開催した。

今後、滋賀県遺族会は定款を一部変更し、特別会員・遺児会員・一般会員のほかに青年部を新たに設け、調査結果をもとにリストアップした該当者に「遺族会」に対する加入意向調査をおこなう。遺族会の趣旨に賛同しての「遺族会青年部」の提出が求められる。なお、今回の意向調査は県内市町遺族会長を通じて実施されるが、遺族会青年部入会申込書提出者に対するその後の連絡は滋賀県遺族会から直接個々に連絡されることとなっている。

一般会員の子・孫も含めての組織化を目指すべきであるとの積極的な発言が出された。

別表のとおり、意向調査対象者の全員622人が新たな青年部加入申込書を提出されるよう大いに期待する。

冒頭、滋賀県健康医療福祉部健康福祉政策課北村重治参事から3点の事項が説明された。(詳細後述)

続いて、海外戦跡慰霊巡拝計画、靖國神社参拝計画、次世代戦跡訪問研修(鹿児島・沖縄)計画について担当委員会から説明後、過般実施した「戦没者の孫・ひ孫の実態調査」結果と、次の段階として「戦没者の孫・ひ孫の意向調査」を進めることが報告された。

過去において遺族会事業に参加していない者(実態調査票記載から見る) 質疑応答の中で、戦没者の孫・ひ孫に限定された滋賀県青年部の組織化が進められているが、

滋賀県健康医療福祉部健康福祉政策課北村重治参事の連絡事項は次の通り

1、戦没者等の遺族に対する特別弔慰金は、第八回特別弔慰金国債は平成27年6月15日を、第九回特別弔慰金国債は平成27年4月15日を最終償還日として支給が終了する。国会での特別立法審議結果を経て、新年度から第十回特別弔慰金請求手続きが始まるものと予想される。これまでの特別弔慰金とどのように変わるかは法律が成立しない限り定かでないが、遺族会への説明会を予定している。市町役場窓口への問い合わせもおこなう請求漏れの無いように協力して欲しい。

2、滋賀県が主催する滋賀県戦没者追悼式は平成27年度が第2回目となる。終戦70周年記念式典として平成27年8月26日に開催する予定であり、三日月大造滋賀県知事は多くの遺族会員と一緒に式典へ望むことを強く期待されている。式典会場は検討中である。

3、毎年おこなわれる政府主催の全国戦没者追悼式典への滋賀県遺族会参列者人数が5人増え、平成27年度は75人となる。戦没者1柱につき参列は1人一回限りという従前からの参列要件が緩和され、戦没者1柱につき2回目の参列が可能となる。



合同会議であいさつする岸田孝一会長

平成26年度 戦没者の孫・ひ孫実態調査の結果と意向調査対象者数

ブロック	市町名	遺児会員数	調査票回収数(枚)	意向調査対象者数(*1)	意向調査対象者数(*2)	合計
1	大津市	289	193	19	153	172
	高島市	149	130	50	190	240
2	草津市	87	62	15	92	107
	栗東市	94	98	31	147	178
	守山市	126	88	20	132	152
	野洲市	115	108	41	161	202
	湖南市	75	42	13	52	65
	甲賀市	111	168	39	242	281
3	近江八幡市	278	176	86	240	326
	東近江市	357	287	77	434	511
	日野町	39	31	44	113	157
	竜王町	53	52	22	100	122
4	彦根市	204	160	65	199	264
	長浜市	311	244	68	328	396
	米原市	121	115	22	119	141
	甲良町	13	13	10	29	39
	多賀町	5	18			
	豊郷町	1	0			
合計		2,499	2,052	622	2,731	3,353

(*1): 過去に遺族会事業に参加したことのある者の人数 (*2): 過去に遺族会事業に参加したことのない者の人数

一日も早い返還を 北方領土視察団



四島のかけ橋のモニュメントの前で(納沙布岬)

平成26年10月28日から31日の3泊4日の日程で、視察団の一員として滋賀県遺族会から2人参加させていただきました。

北海道最東端根室市納沙布岬からは、歯舞群島の一部水晶島や貝殻島が間近に見えます。島々を取り巻く海域は漁場も多く、漁獲量も豊富だとか。終戦以来ロシアによる不法占拠

は今もなお続いているのです。以前、島民の二世になる方、私と同年代と思われる方のお話を聴く事が出来ました。戦争が終われば元の島に帰れるものと信じていたから、着の身着のまま追い出され、過酷な辛い生活を強いられました。また、自分達が元の島に帰れば、今生活しているロシアの方に島を追い出された同じ悲しみや苦しみを味わって欲しいという複雑な胸の内を話されました。もう少しで、戦後70年になります。北方領土は、日本の領土です。日本の国土として、一日も早く取り戻したい気持ちに重ねて、返還されることを願っています。

(東近江市遺族会 中村 はる)

おकाあさんを訪ねて

間宮 さかさん(野洲市)

平和な時代を未来に祈る



大東亜戦争は昭和16年12月8日に始まり、昭和18年10月に見知らぬ土地に嫁いで、1年経たない昭和19年、夫は出征しました。当時はど

ちの方面に行つたのか分からない有様でした。私は百姓は初めてで、両親の後について習い、ウロウロするばかりでした。

その時は夫の形見の子を宿していましたが、夫は知らずに出征しました。昭和20年1月に男児が生まれ、『5月にボルネオ・タワオで戦死』との公報を受け取りました。しばらくは途方に暮れ、3年ぐらいは頂上から谷底へ落とされ、どうする

ことも出来ませんでした。この家を守って家族4人生きていかんならん。食べる米はあるけれども金が無い。「ぜいたくは敵だ。勝つまで

は」の合い言葉、味噌汁に漬物の毎日、喜んでいただいた。この子が大きくなるのを楽しみに働いた。大八車に荷物を乗せて、米の検査受け、1俵の米を背負って運んだり、山のしべ竹を切り水づきの田のしけぬきをしたり、いろいろありました。

もう戦争はイヤ!二度としないでほしい。今までの様な生活は、私達で充分。戦争のない平和な時代の毎日を嬉しく、未来にお祈りします。

ぬぐいを裂いてご飯粒をねり指先にすり込んで処置しました。夏になると、夜なべに藁を打って縄をぬい、草履作り、むしろ織り、俵編みが日課でした。内職に裁縫や編み物をし、草引きに雇われたりしました。

私が辛抱すれば良いと家の土台になりました。息子も小学生から百姓の手伝いをしてくれました。私も働き

こがらしの 卒寿越え車イス 土台の辛ばうかがやきにけり (野洲市 間宮 さか)

あじあなみ

和気あいあいに女性部の集い

高島市遺族会 女性部長 川崎かずゑ

平成26年11月25日、高島市遺族会女性部の集いを開催しました。同じ境遇に育った仲間たちと気楽な雰囲気、会員相互の親睦を図る目的で毎年開催しておりますが、今回は、安曇川町の寿光苑で食事を兼ねての開催となりました。

午前11時、参加者24人が黙祷を捧げ、続いて白鳳短期大学非常勤講師(元大津赤十字看護専門学校教師)の竹井たき子氏を迎え「老後を心地よく



筋肉を鍛える体操の指導を受ける参加者の皆さん

く快適に過ごすには」の演題で講演をしていただきました。

筋肉は年齢に関係なく鍛えることが出来るので、実践指導も受けました。

これから私たちが年齢を重ね、今後自分自身がどの様な姿になるのか不安でいっぱいです。少しでも家族に迷惑をかけずに、積極的に遺族会活動に参加できるように勉強させていただきます。

昼食会では、女性部の活動等について話し合いながら、和気藹々の時間を過ごしました。引き続き歌謡ショーの時間を設け、演歌の上手な田辺晴子さんに「岸壁の母」「東京だよおっ母さん」等を歌っていただき、母を偲び、涙あり、笑いありの楽しいひと時を。最後に「琵琶湖周航の歌」「靖国神社の歌」を全員で斉唱し、短い時間でしたが楽しい有意義な一日となりました。

なお、年末には、戦中・戦後の激動期に幼子を抱えながら苦勞に耐え忍び、乗り越えて来られたお母さん方26人へ、女性部一同で敬意と感謝の気持ちを込めて、靴下とお菓子を届けさせていただきます。

忠魂碑の維持管理を行政で実現!

草津市遺族会連合会 会長 木村 正昭

草津市遺族会連合会では橋川渉草津市長に対して、二つの案件で要望書を直接渡しました。一つは、市内6カ所にある忠魂碑の維持・管理を行政でしてほしい。もう一つは、次世代戦

跡慰霊訪問の助成をお願いしました。その後、市長さんに出会った時、「木村さん、要望書の件忘れてへん」と声を掛けていただきました。大変楽しみにしております。

小学生も参加した金田学区平和祈念式

近江八幡市遺族会 永福 峰子

近江八幡市では平成25年度から市主催の平和祈念式に加え、学区独自でも同様の式典が行われている。金田学区では「過去の戦争で尊い犠牲となられた戦没者の方々は言うに及ばず、今日の金田の繁栄を築いていただいた先人、物故者のご冥福をお祈りするとともに、再び戦争を繰り返さず末永く平和な社会を築いていくことを肝に銘じ、誓い合う日」として、平成26年10月25日、前年に引き続き2回目の金田学区平和祈念式が金田コミュニティセンターで開催された。

式典は、金田学区社会福祉協議会、同まちづくり協議会、同自治連合会共催で行われ、それぞれの会長



金田学区平和祈念式に参加した皆さん

と金田学区遺族会小西靖雄会長から追悼のことは述べられた。来賓として市長代理の方からごあいさつをいただき、市高木健三会長、市議会議員にも参加いただいた。参加者全員による献花の後、金田小学校6年生3人から「平和への想い」と題して平和学習の作文発表を、「僕たちも喧嘩は絶対しないことを考えたい」力強く述べた。

その後、「戦争と平和について考える」県民の戦争体験をもとに「の演題で滋賀県平和祈念館の前川啓史氏が講演された。「祈念館は平成24年3月にオープンし、2年半の現在、県下80校に出前講座をした」とのこと。また、戦争に関するパネル、資料展示をしていただき、90余人の参加で有意義な祈念式となった。

祈念式終了後、場所を忠魂碑の前に移して金田学区遺族会主催の戦没者追悼法要が行われ、金田仏教会のご好意により3人の僧侶による読経のお勤めをいただいた。「金田学区200有余の御霊は私どもの永遠に

英霊顕彰を！学区民に深まった写真の展示

長浜市遺族会南郷里支部長 井関 賢一

平成26年10月25日、26日の2日間、長浜市の南郷里学区では南郷里地域づくり協議会主催の「文化祭・楽市楽座」が盛大に開催され、長浜市遺族会南郷里支部も主催者の一員として写真の展示を行いました。

「滋賀県遺族会の活動」と題して、滋賀県遺族会が実施している主要事業の写真や地元遺族会の南郷里遺族会が実施している忠魂碑前でのお盆法要などの写真を展示いたしました。

海外戦跡慰霊巡拝・遺骨収集写真、慰霊と平和祈願リレー行進写真、みたま祭の写真など滋賀県遺族会の写真はもとより地元のお盆法要写真は、多くの皆さんが釘付けとなって鑑賞していただきました。

藤井勇治長浜市長(中央)を出迎えた大家博前長浜市遺族会会長(左)と筆者(右)



初の行政主催 平和祈念式典開く

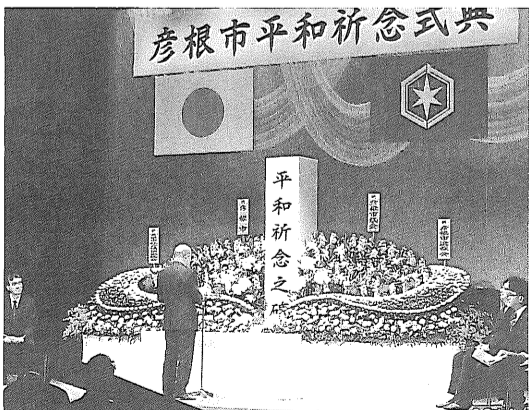
彦根市遺族会会長 山本 起美郎

平成25年まで実行委員会(委員長彦根市遺族会会長)主催で行っていた平和祈念戦没者追悼式を改め、彦根市主催の平和祈念式典が平成26年11月9日「みずほ文化センター」において開催されました。

黙祷の後、大久保貴彦市長の式辞に始まり、追悼の辞を、山本起美郎彦根市遺族会会長、谷口典隆彦根市議会議員、上野賢一郎衆議院議員、滋賀県知事代理瀬戸昌子湖東健康福祉事務所長、的場恵美子滋賀県遺族

忘れることのできない平和の礎であり、私たちが再び戦争の惨禍が起ることのないことを切望すると共に、このうえは御霊のご冥福を心

からお祈りし、感謝の誠を捧げ、平和と安全を願い、挨拶とさせていただきます」と小西会長が述べ、40人の参加のもと法要を滞りなく終了した。



追悼の辞を読み上げる山本起美郎彦根市遺族会会長

を亡くした私たちが、世界の平和と安定を訴えてこそ意義があると感じました。